
闇と男

たけっちー

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇と男

【Nコード】

N6541A

【作者名】

たけつちー

【あらすじ】

女の娘の下敷きを二人で探していると、突然田代がつぶやいた。
《別にいいじゃん。そんなもん無かったて。》女の娘の反応は？

第二話、思い出

女の娘

「…ありがとつ。」

女の娘は目のすぐ横の涙を手で拭った。
に大切なものなのかな?」

田代（そんな

「その下敷きつて、どんなやつ?」

田代は耳をほじりながら言った。

女の娘

「…ピンクの、スケルトンの下敷きで、友達の寄せ書きがいっぱい書かれてある。」

田代

「へえー。」

田代はテキトーにうなずいた。

田代

「どこで落としたの?。」

田代はフツーに聞いた。

女の娘

「…分かんないよ。」

田代

「じゃあ、今日はどこに行った?。」

田代はうつむいたまま言った。

女

の娘

「…えっと、この道を通って図書館に行ったの。」

田代

「…じゃあオレはこの道を通って、図書館の方探してくる。」

そう言って田代は図書館への道を歩いていった。

……

ずいぶん下敷きを探しただろうか、

辺りはすっかり暗くなっていた。

そして田代が自分の時計を見てみると、8：53と示していた。

田代（やつべー、渡鬼始まっちゃうよー。

）
田代はそう思い、図書館にきた道を走った。ちなみに田

代の家から図書館は、歩いて十分ほどの距離である。

女の娘（…もうこんな時間。

あの人まだ探してくれてんのかな？もう二時間は経ってるよ。）

女の娘はまだ下敷きをあきらめ切れず、公園の茂みなどを探している。 田代

「どお、見つからない？。」

女の娘が真剣に探していると、向こうから田代が自分のケツをかきながらこっちへ向かって来た。 女の娘

「うん…。こんな時間までありがとつ。あとは私一人で探すから…。」

そう言つて女の娘はまた茂みを探しはじめた。 田代

「…いいじゃん。」

女の娘

「えっ…。」

田代のつぶやきが女の娘の耳に入り、女の娘は少し動きが止まった。 田代

「別にいいじゃん。そんなもん無くたって。必死こいて探すもんじやねえだろ？。」

田代はつつけんどんに言った。 「

女の娘

「どうして…。」

女の娘は弱々しくつぶやいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6541a/>

闇と男

2010年10月9日13時56分発行